令和８年度東部地区ステップ・アップ研修　実施報告

１　目的

ステップ・アップ研修は、初任者研修を踏まえるとともに、１年間の教員としての経験をもとに現職教員研修の一環として、実践的指導力と使命感及び幅広い知見等のより一層の向上を目的とする。

２　期日

第１日（７月２３日）オンライン型研修
第２日（８月　３日）参集型研修

３　受講者数　　２６２人

小学校等教諭　　１８６人
中学校等教諭　　７６人

４　日程

＜第１日＞　令和８年７月２３日（木）【全日：所属校研修（オンライン）】

・講　話「小中学校教員のこころ―これから取り組むべきこと―」
東部教育事務所　所　長　越　晃宏

・講義１「東部の教育を担う教員として」
東部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当
主席指導主事　長谷川　裕晃

・講義２「教育公務員としての服務規律と不祥事の防止」
東部教育事務所総務・人事・学事担当
主席管理主事　酒巻　克太郎

・講義３「生徒指導に関する現状と課題」
東部教育事務所　指導主事　塩野谷　直充

・講義４「特別支援教育の視点を生かした授業・学級経営の充実」
東部教育事務所　指導主事　會田　浩

・講義５「道徳教育の充実 ～道徳科の授業づくり～」
東部教育事務所　指導主事　辻本　真理子

・講義６「よい授業のポイント（授業づくりについて）」
東部教育事務所　指導主事　松岡　秀実

・講義７「先輩に学ぶ」
春日部市立南桜井小学校　教諭　木村　瞳

・受講者代表「教員生活２年目を迎えて」
蓮田市立蓮田中学校　教諭　逸見　采佳

＜第２日＞　令和８年８月３日（月）【全日：春日部市立豊春小学校（参集）】

・協議１「第１日の講義動画を振り返って」
・協議２「生徒指導に関する課題と指導の工夫」
・協議３「特別支援教育の視点を生かした授業・学級経営における指導の工夫」
・協議４「道徳授業における指導方法の工夫」
・協議５「学習指導における実践と今後の課題」

【協議の主な流れ】
１　協議のテーマ説明　　３　発表共有（全体にて）
２　協議（各班にて）　　４　指導講評

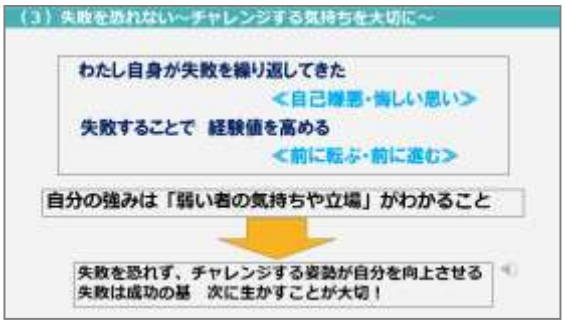
5　内容・受講者感想

第１日

講話　小中学校教員のこころ―これから取り組むべきこと―

東部教育事務所　所長　　越　晃宏

１　教師としての情熱を忘れずに
２　教師としての心得
（１）児童生徒も一人の人間
（２）２年次の今だから身につけたい「視点と所作」
（３）失敗を恐れない
３　自分を大切に

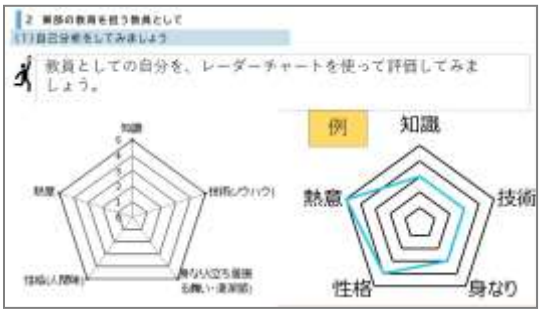


【受講者感想】
◎生徒一人ひとりが個を持った人間であり、「教師の姿そのものが教育である」という言葉に深く感銘を受けました。自分の言動や態度が生徒に大きな影響を与えることを常に自覚し、美しい立ち振る舞いと情熱をもって日々生徒に向き合ってまいります。
・◎「教員採用試験に合格した時に想像していた自分になれているか」という問いかけに身が引き締まりました。2 年目となり慣れが出やすい時期ですが、採用当時の初心と情熱を忘れず、失敗を恐れずに挑戦し続ける教員でありたいと強く実感いたしました。
・◎教師の何気ない一言が、子どもの未来を大きく支えることもあれば傷つけることもあるという「言葉の重み」を痛感しました。常に謙虚な姿勢で学び続け、児童生徒の心に深く寄り添いながら、信頼される指導を心がけていきたいと改めて思いました。

講義１　「東部の教育を担う教員として」

東部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当
主席指導主事　長谷川　裕晃

１　はじめに
（１）ステップ・アップ研修会について
（２）先生と呼ばれることについて
（３）研修の心構え
２　東部の教育を担う教員として
（１）自己分析をしてみましょう
（２）信頼される教員となるために
（３）児童生徒理解と保護者対応
（４）学級経営、学級環境



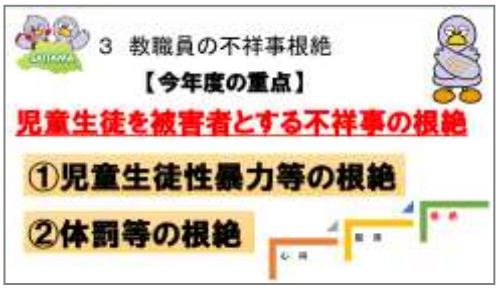
【受講者感想】
◎児童生徒や保護者から「先生」と呼ばれることの重みと、そこに込められた大きな期待を改めて実感いたしました。日々の指導において一貫性と共感性を大切にし、関わる方々からの信頼に応えられるよう、生涯学び続ける姿勢で努力を重ねてまいります。
◎「先生」と呼ばれる立場としての責任感を再認識し、身が引き締まる思いがいたしました。信頼される教員に必要な資質や保護者対応の基本を常に見直し、子どもたちの良き手本となれるよう、一歩一歩成長を目指して誠実に職務に励んでまいります。

◎講義を通して教員としての基本を今一度見直すことができ、自己分析によって自身の課題を再認識いたしました。子どもたちの手本となるべく、指導にブレを持たせず、公平性と温かな共感心をもって一人ひとりと向き合っていきたいと思います。

講義２　「教育公務員としての服務規律と不祥事の防止」

東部教育事務所総務・人事・学事担当
主席管理主事　酒巻　克太郎

1　教職員としての心得
2　教職員の服務
3　教職員の不祥事根絶

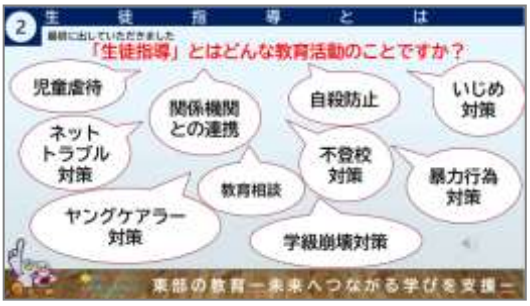


【受講者感想】
・◎教育公務員としての自覚と高い倫理観を持つことの重要性を強く痛感いたしました。自分自身の軽率な行動が学校や同僚、子どもたちに重大な影響を及ぼすことを心に刻み、公私混同を排して服務規律の徹底と不祥事防止に万全を期して取り組んでまいります。
・◎「玄関を出たら公務員としてのスイッチを入れる」という言葉に深く納得いたしました。学校の顔であるという意識を強く持ち、日頃の報連相や行動管理を徹底するとともに、一人で悩みを抱え込まず周囲と連携して誠実に職務を果たしていきます。
・◎不祥事は他人事ではなく自分にも起こり得るという危機感を持ち、常に緊張感を持って行動すべきだと学びました。日頃の健康管理にも留意しつつ、全体の奉仕者としての責任を果たし、地域や保護者から信頼される教員であり続けるよう努めます。

講義３　「生徒指導に関する現状と課題」

東部教育事務所　指導主事　　塩野谷　直充

1　生徒指導とは
2　普段の学校生活における生徒指導
3　演習（生徒指導ハンドブック I’s 2019 より）



【受講者感想】
◎児童生徒が安心して学校生活を送れる「心の居場所」や、主体的な学びを通じた「絆づくりの場」を構築する大切さを学びました。日頃から子どもたちの小さな変化やサインを見逃さず、早期発見・早期対応に組織全体で努めてまいりたいと思います。
・◎生徒指導の本質は、児童生徒の自発的な成長を温かく支援することにあると深く理解いたしました。演習を通して具体的な対応策を考えることができたので、今後は一人ひとりの気持ちに寄り添い、未然防止を意識した学級経営を実践してまいります。
・◎近年のいじめや不登校等の現状について理解を深め、組織的な対応の重要性を強く実感いたしました。日頃から児童生徒とのコミュニケーションを密にし、小さな違和感にすぐ気づいて他の教員と連携できる体制を整えていきたいと決意いたしました。

講義４　「特別支援教育の視点を生かした授業・学級経営の充実」

東部教育事務所　指導主事　會田　浩

１　みんなが分かる授業づくり
２　特別支援教育に関する情報提供
（１）インクルーシブ教育システムについて
（２）合理的配慮の提供について
（３）交流及び共同学習について



【受講者感想】
◎「特別な支援が必要な子は困った子ではなく困っている子である」という視点に深く感銘を受けました。支援を特別扱いではなく必要な配慮と捉え、一人ひとりのつまずきや特性に応じた丁寧な指導と環境調整を学校全体で実践してまいりたいと思います。
◎特別支援の視点を取り入れた授業づくりは、一部の生徒だけでなく「全員にとって分かりやすく意味のある授業」につながると分かりました。一斉指導の中でも個別の学びを確保し、全員が達成感を味わえるような授業の工夫に励んでまいります。
◎児童生徒の実態が多様化する中で、教師自身が多角的なアセスメント力を持つ重要性を学びました。一人で抱え込むことなく学年や学校全体で連携しながら、誰もが自分らしく安心して学べる共生社会の実現に向けた学級づくりを目指してまいります。

講義５　「道徳教育の充実 ～道徳科の授業づくり～」

東部教育事務所　指導主事　辻本　真理子

１　道徳科の授業を振り返って
２　道徳科において知っておくべきこと
３　柔軟な道徳授業をつくるために
４　道徳科における評価



【受講者感想】
◎児童生徒が自分事として切実感を持って深く考えられる道徳の授業づくりの大切さを学びました。教員からの価値の押し付けにならず、発問を工夫して多様な視点や対話を引き出し、子どもたちと一緒に悩み、学び合える授業を実践してまいります。
・◎道徳の評価は他者との比較ではなく、個人の成長を認め励ます「個人内評価」であるという留意点を深く理解いたしました。子どもたちが安心して自分の思いや意見を表現し合い、互いの考えを認め合いながら道徳性を育める場をつくっていきます。
・◎授業でねらいを明確に持ち、深まる問い返しを行う重要性を実感いたしました。国語のような文章読解に終始せず、児童が主体的に考え、納得解を導き出せるような授業構成を目指し、2 学期からの実践に積極的に活かしていきたいと考えております。

講義６　「よい授業のポイント（授業づくりについて）」

東部教育事務所　指導主事　松岡　秀実

１　よい授業づくりのために
（１）授業のゴールの明確化
（２）児童・生徒の実態把握
（３）単元全体を見通した授業構築
（４）自分自身の振り返り
２　埼玉県の教員として



【受講者感想】

・◎単元全体のゴールを明確にし、児童生徒の実態に基づいた段階的な授業構築の重要性を再確認いたしました。「良い授業とは生徒が目標を達成し成長できる授業である」という言葉を胸に、主体的・対話的で深い学びを実現できるよう工夫してまいります。
・◎授業づくりにおいて、子どもの実態把握や見通しを持った計画、振り返りの視点がいかに大切かを学びました。生徒自身が「学ぶって楽しい」と感じられるような授業を目指し、自分自身の授業改善にも重点項目を絞って継続的に取り組んでいきます。
・◎自分自身の授業を客観的に振り返る方法や、同僚・児童の反応から改善点を見出す重要性を実感いたしました。授業は教員の最重要職務であるという自覚を持ち、単元ゴールを見据えた言語活動の充実と確実な力の発達を目指して工夫を重ねてまいります。

講義７　「先輩に学ぶ」

春日部市立南桜井小学校　教諭　木村　瞳

１　学級経営で大切にしてきたこと
２　授業づくりで意識してきたこと
３　教員としての資質能力の向上のために
　　行ってきたこと



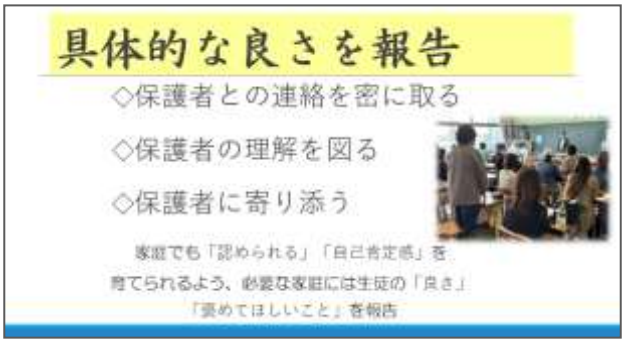
【受講者感想】

・◎先輩教員の実践から、誰もが安心して意見を言え、失敗を恐れずに認め合える「支持的風土」づくりの大切さを学びました。学級開きや日頃の関わりを通し、子どもたちが主体的に課題を解決し、互いを高め合える温かい学級経営を目指してまいります。
・◎先輩方の情熱的な取り組みに大きな刺激を受け、日頃周囲で支えてくださる方々への感謝の気持ちを新たにいたしました。失敗を恐れずに新しい指導法や学級経営に挑戦し、経験を糧としながら自身の実践力を向上させていきたいと強く思いました。
・◎学級活動を中心に、児童の学習意欲や基礎力を高める具体的なアプローチが大変参考になりました。校種が違っても子どもへの熱意や大切な軸は共通していると感じたため、学んだ工夫を自身の指導に取り入れ、粘り強く実践を継続してまいります。

受講者代表発表　「教員生活２年目を迎えて」

蓮田市立蓮田中学校　教諭　逸見　采佳

１　１年目の成果
２　２年目の実践
（１）家庭との連携
（２）生徒に考えさせる
（３）新しい取組の導入



【受講者感想】
- ◎同期の先生の実践発表を聞き、「生徒一人ひとりを特別扱いする」という姿勢や細やかな心配りに大変感銘を受けました。生徒の小さな変化や隠れた良さを見逃さず、様々な場面で肯定的な声をかけながら個性を伸ばす指導を意識してまいりたいと思います。
- ◎教師が全てを指示するのではなくあえて指示や準備に余白を残すことで、生徒の主体性や自己指導力を引き出す工夫が大変勉強になりました。自分自身の指導を見直し、信頼関係を基盤としながら生徒と共に授業や学級を作り上げる姿勢を目指していきます。
- ◎「褒めること」と「指摘すること」のメリハリの付け方や、リーダー育成を通じた学級づくりの手法が非常に参考になりました。自身の課題から逃げずに一つひとつ向き合い、生徒が失敗を恐れず挑戦できる環境を整えていきたいと決意を新たにいたしました。

受講者のアンケート結果

質問項目	回答率（%）				平均
	4	3	2	1	
1　研修に意欲的に参加することができた	79.2	18.7	0.7	1.4	3.8
2　研修の内容は、実践的で役立つものだった	73.9	23.6	2.2	0.3	3.7
3　研修に参加して疑問や不安を解消できた	48.9	43.7	7.4	0.0	3.4
4　研修に満足している	66.6	27.9	4.8	0.7	3.6

＊４（あてはまる）　←――→　１（あてはまらない）

第２日

協議１　「第１日の講義動画を振り返って」

◎東部地区を担う教員として、日頃の言動や態度を常に見直し、周囲から信頼される存在であり続けることの大切さを実感いたしました。教員一人ひとりが「学校の顔」である自覚を持ち、高い倫理観と責任感を持って日々の職務に誠実に励んでまいりたいと思います。
- ◎他校の先生方との協議を通し、教員としての心構えや不祥事防止への意識を改めて共有することができました。教員になりたかった初心を忘れず、日頃から生徒や保護者、地域の方々に対して親身かつ丁寧な対応を心がけ、信頼関係を築いていきたいと思います。
-

◎一人ひとりの行動が学校や教育全体への信頼に直結することを強く認識いたしました。「自分で自分に教えたことだけが心に残る」という言葉を胸に刻み、常に自己研鑽を怠らず、児童生徒の手本となれるよう誠心誠意努めてまいりたいと考えております。

協議２　「生徒指導に関する課題と指導の工夫」

・◎不登校やいじめ等の現状を正しく理解し、日頃から児童生徒の小さな変化やサインを見逃さない重要性を学びました。「指示する」のではなく「寄り添い支える」意識を持ち、一人で抱え込まず学年や組織全体で迅速に連携した生徒指導を実践してまいります。
・◎グループ協議を通して、予防的な生徒指導の重要性や早期発見の具体的な工夫について共有することができました。日々の中で児童生徒の良さを積極的に見つけ出し、誰もが安心して自分らしく学校生活を送れる雰囲気づくりに努めてまいりたいと思います。
・◎ネットいじめ等、全体像の把握が難しい問題に対しても、日頃の信頼関係の構築が早期発見につながると実感いたしました。事例研修を通じて得た知見を活かし、関係各所や保護者との迅速な情報共有を徹底しながら、組織的かつ慎重に対応を行ってまいります。

協議３　「特別支援教育の視点を生かした授業・学級経営における指導の工夫」

・◎特別な支援が必要な生徒への対応は、一部のための特別扱いではなく「全員にとって分かりやすく学びやすい環境づくり」につながると再確認いたしました。ワークシートの工夫や視覚的な手がかりを活用し、誰もが見通しを持って学べる授業を目指してまいります。
・◎ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境整備や、具体的な板書の工夫について他校の実践から多くを学ぶことができました。児童生徒一人ひとりの困り感に寄り添い、できたことをしっかりと褒めて認めながら、全員で支え合う温かい学級経営に努めます。
・◎教室の掲示物や指示出しの工夫など、実践的で効果的なアイデアを数多く共有していただくことができました。特別支援の視点は通常学級における指導の原点でもあると捉え、生徒の特性に応じたきめ細かな支援と多様な手立てを授業に取り入れていきたいです。

協議４　「道徳授業における指導方法の工夫」

◎道徳の授業においては、教師が正解を一方的に教えるのではなく、生徒自身が多角的・多面的に考え、議論を深める過程が重要だと再確認いたしました。導入の工夫や適切な発問を通して、一人ひとりの考えが豊かに深まるような授業づくりを目指してまいります。
・◎デジタル教材や発問シートの活用など、他校の先生方の具体的な指導の工夫や実践事例を学ぶことができ大変勉強になりました。生徒が自分事として切実感を持って捉え、多様な意見に触れながら納得解を導き出せるよう２学期からの授業展開に活かしていきます。
・◎振り返りシートを用いた協議により、自身の指導上の課題と成果が明確になり今後の授業改善への意欲が高まりました。相手の立場に立った問い返しや終末の工夫を取り入れ、子どもたちが安心して思いを伝え合い、互いに学び合える時間を創出していきます。

協議５「学習指導における実践と今後の課題」

◎良い授業とは、教師からの一方的な伝達ではなく、生徒が目標を達成し自己の成長を実感できる授業であると学びました。単元全体のゴールを明確にし、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に展開できるよう、ICT を活用した効果的な授業設計に努めます。

・◎教科の協議を通して他校の先生方の優れた実践を知ることができ、大変有意義な時間となりました。子どもがあえて解決策を探り選べるような「余白」のある授業展開を意識し、生徒の興味ややる気を引き出す工夫を今後の指導に積極的に取り入れてまいります。

・◎単元を貫く学習課題の設定や、ルーブリックを用いた具体的な評価方法について貴重なアドバイスをいただきました。生徒自身が目的意識を持って学びに向かえるよう、知識の定着だけでなく見通しと振り返りを重視した授業改善を継続して行ってまいります。

※【受講者感想】は、標記の都合上、文末等を変更しています。

受講者のアンケート結果

質問項目	回答率（%）				平均
	4	3	2	1	
1 研修に意欲的に参加することができた	85.7	10.9	1.2	2.3	3.8
2 研修の内容は、実践的で役立つものだった	78.3	18.6	1.2	1.9	3.7
3 研修に参加して疑問や不安を解消できた	64.0	32.6	1.9	1.6	3.6
4 研修に満足している	73.6	20.9	2.7	2.7	3.7

＊4（あてはまる） ←――→ 1（あてはまらない）

6　成果

・第１日を動画視聴型、第２日を参集型の研修形態をとっている。第１日の動画を視聴したうえで、第２日の協議を行ったため、受講者全員が協議の目的や視点をそろえて第２日の協議を行うことができた。

・第１日の研修では、「単元全体を見通したゴールの設定」「ユニバーサルデザインを取り入れた視覚的支援・スモールステップ」「道徳における自分事化を促す発問」など、各講義で提案された具体的な授業手立てや指導方針に対し、多くの受講者が２学期以降の実践として取り入れる意欲が受講者アンケートから分かった。

・第２日の参集型の研修では、各教室をオンラインでつなぎ、各協議後の指導を一人の指導主事が行った。このことにより、受講生全員が同じ指導を受け、理解を深めることができた。

・「疑問や不安を解消できた」の「あてはまる」割合が、第１日の 48.9% から 64.0% へ大きく大幅に上昇した（肯定評価合計は 96.6%）。

・実践例を同世代の受講者同士で共有・対話することで、自校での困り感の解消や視野の拡大（「他校での工夫」「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」など）に繋がった。

7　課題

・第１日では講義が多岐にわたり、「学んだことを自分自身の現場に落とし込むための消化時間が足りない」「内容が盛りだくさんで焦点化が難しかった」といった声が一部に見られた。

・第２日の協議１の時間や最後のアンケート時間に余裕がなく、協議や振り返りに深まりが持てない部分があった。

・欠席者は、第１日１４名、第２日４名であった。第１日の主な理由は、林間学校や部活動県大会の児童生徒引率による欠席であり、実施日または研修方法等を検討をしていく。

・研修中における昼休みの外出など、研修の心構え等について、周知文や第一日（オンライン開催）において周知徹底をする。